



[海の状況 (9/21~10/20)]

神子表面水温……期間全体をとおして平年並み(平年より±0.5℃程度)からやや高め(平年より0.5~1.0℃程度高め)の範囲で推移した。(図1)。

米ノ表面水温……期間全体をとおしてほぼ平年並みで推移した(図2)。

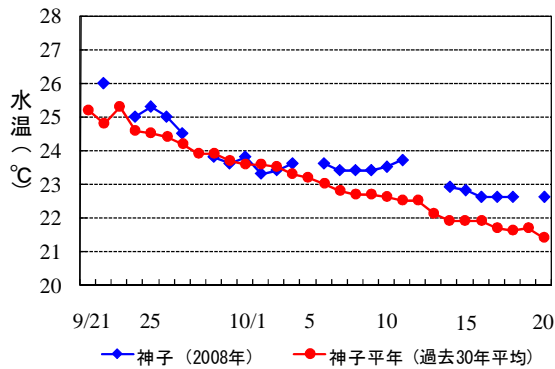


図 1. 若狭町神子地先における表面水温の推移。

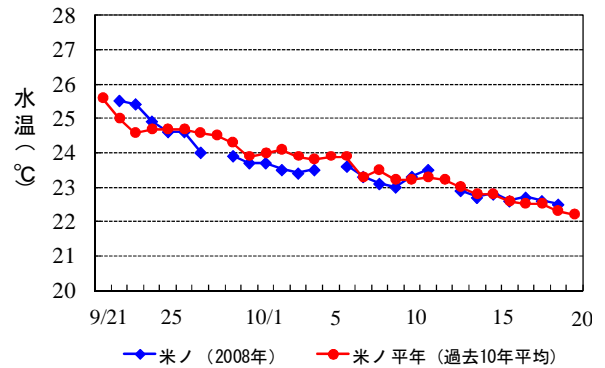


図 2. 越前町米ノ地先における表面水温の推移。

☆ 100m深水温……若狭湾沿岸域には15℃台 (2007年：15~16℃台) が広がっていた(図3, 4)。☆

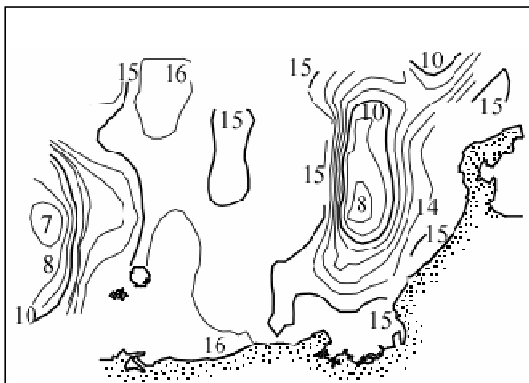


図 3. 2008年10月上旬の100m深水温。

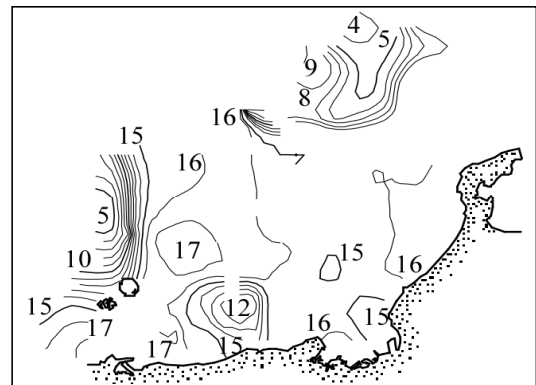


図 4. 2007年10月上旬の100m深水温。

資料：日本海区水産研究所ホームページ発表の日本海漁場海況速報

平成20年度第3回日本海海況予報

日本海区水産研究所が平成20年10月~12月までの日本海海況予報を発表しましたので、関係部分を紹介します(本予報は、水産庁ホームページ[<http://www.jfa.maff.go.jp/>]の報道発表資料の中に掲載されています。)

- 6月~8月の山陰・若狭沖の冷水域は、規模は小さく、接岸状況は平年並みであった。今後の張り出しは、“平年並み”で経過するでしょう。
- 対馬暖流域の表面水温は6月~8月にかけて一部の海域を除いて“平年並み”から“やや高め”で推移していた。今後は“平年並み”で経過するでしょう。
- 対馬暖流域の50m深水温は、日本海西部(福井県~島根県)および北部とも“平年並み”(4月~6月平均)で推移していた。今後は日本海西部および北部では“平年並み”で経過するでしょう。

(瀬戸久武)

〔漁の模様〕

2008年9月の県内の総水揚量は1,479tで、2007年同月を403t上回った。アジ類（2008年；68t、2007年；101t 以下同じ）、シイラ（103t、136t）、ケンサキイカ（3t、20t）等は下回ったものの、ブリ類（319t、70t）、サワラ（482t、287t）、アカガレイ（122t、80t）等は上回った。

漁業種類別の状況

定置網 ……アジ類、シイラ等は下回ったものの、ブリ類（ワラサ・ツバス銘柄主体）、サワラ等は上回り、全体では前年を403t上回った。

底びき網 ……ニギス等が下回ったものの、キダイ、アカガレイ等が上回り、全体では前年を8t上回った。

釣り・他 ……キダイ等が上回ったものの、ケンサキイカ等が下回り、全体では前年を8t下回った。

〔県内主要漁業の9月の漁獲量〕

(単位：kg)

| 定置網 | | | |
|------------|-----------|---------|---------|
| 魚種 | 2008年 | 2007年 | 98-07平均 |
| イワシ類 | 8,656 | 133 | 23,077 |
| アジ類 | 66,233 | 98,863 | 74,567 |
| サバ類 | 8,752 | 5,806 | 23,060 |
| マグロ類 | 249 | 175 | 3,887 |
| カジキ類 | 22,980 | 19,150 | 13,383 |
| カツオ類 | 799 | 1,892 | 7,020 |
| ブリ類 | 318,574 | 69,632 | 164,327 |
| ヒラマサ(カンパチ) | 10,496 | 775 | 11,709 |
| シイラ | 102,594 | 136,390 | 75,206 |
| サワラ | 481,945 | 286,458 | 160,895 |
| マダイ | 3,994 | 1,311 | 2,789 |
| スズキ | 1,379 | 1,711 | 1,074 |
| カマス | 8,916 | 10,765 | 21,710 |
| フグ類 | 5,983 | 7,334 | 15,876 |
| アオリイカ | 8,888 | 6,151 | 8,534 |
| ケンサキイカ | 397 | 2,284 | 4,710 |
| ソデイカ | 656 | 219 | 4,308 |
| その他 | 7,720 | 6,952 | 19,638 |
| 合計 | 1,059,210 | 656,001 | 635,769 |

| 底びき網のつづき | | | |
|----------|---------|---------|---------|
| 魚種 | 2008年 | 2007年 | 98-07平均 |
| その他エビ | 5,545 | 3,555 | 5,345 |
| その他 | 77,615 | 104,764 | 88,107 |
| 合計 | 343,209 | 334,962 | 308,160 |

| 釣り、延縄、さし網、その他 | | | |
|---------------|--------|--------|---------|
| 魚種 | 2008年 | 2007年 | 98-07平均 |
| アジ類 | 496 | 1,143 | 1,001 |
| サバ類 | 5 | 137 | 192 |
| ブリ類 | 236 | 494 | 1,021 |
| ヒラマサ | 13 | 3 | 579 |
| シイラ | 81 | 8 | 105 |
| サワラ | 17 | 113 | 57 |
| マダイ | 4,240 | 3,092 | 4,360 |
| キダイ | 7,355 | 4,014 | 4,010 |
| アマダイ | 4,745 | 3,180 | 5,363 |
| スズキ | 168 | 360 | 375 |
| ヒラメ | 1,004 | 757 | 657 |
| タチウオ | 19 | 268 | 273 |
| アナゴ | 206 | 159 | 337 |
| メバル類 | 2,628 | 1,283 | 3,028 |
| キス類 | 111 | 890 | 454 |
| スルメイカ | 634 | 41 | 8,887 |
| アオリイカ | 2,141 | 2,513 | 4,097 |
| ケンサキイカ | 2,119 | 16,540 | 13,131 |
| ソデイカ | 11,336 | 11,921 | 38,792 |
| タコ類 | 5,196 | 6,794 | 6,059 |
| その他エビ | 289 | 378 | 657 |
| その他 | 33,244 | 30,532 | 31,847 |
| 合計 | 76,283 | 84,618 | 125,282 |

| 底びき網 | | | |
|--------|---------|--------|---------|
| 魚種 | 2008年 | 2007年 | 98-07平均 |
| マダイ | 2,506 | 1,156 | 2,573 |
| キダイ | 17,065 | 14,182 | 10,913 |
| アマダイ | 1,049 | 1,240 | 1,711 |
| アカガレイ | 121,874 | 80,134 | 73,974 |
| その他カレイ | 34,243 | 42,469 | 67,149 |
| アナゴ | 2,184 | 2,682 | 4,160 |
| ハタハタ | 10,048 | 1,510 | 1,791 |
| ニギス | 12,436 | 20,964 | 16,242 |
| ケンサキイカ | 541 | 1,215 | 919 |
| タコ類 | 16,283 | 15,637 | 5,124 |
| アカエビ | 67,985 | 65,586 | 50,695 |

| 総計 | 2008年 | 2007年 | 98-07平均* |
|----|-----------|-----------|-----------|
| | 1,478,703 | 1,075,581 | 1,069,211 |

*まき網による漁獲量を含む。

〔近県の漁模様〕

(9月下旬から10月中旬の漁獲状況……1日1隻または1統あたり。京都府の定置網漁獲量は舞鶴漁連への1日あたりの水揚量。)

石川県 …… 定置網 …… フクラギ112kg、アジ68kg、サバ65kg、サワラ109kg、シイラ198kg
 京都府 …… 定置網 …… サワラ(サゴシ含む)12.9t、マルソウダ11.8kg、シイラ9.5t、ツバス6.1t
 兵庫県 …… 定置網 …… アジ508kg、ツバス232kg、サバ107kg、カマス82kg
 鳥取県 …… まき網 …… マイワシ0.4t、マアジ10.3t、マサバ19.2t、ブリ類4.6t

(瀬戸 久武)

福井県におけるズワイガニ「越前がに」の資源状況について

ズワイガニ漁業が11月6日に解禁されますので、福井県におけるズワイガニの資源状況について報告します。

漁獲動向：福井県機船底曳網漁業協同組合の集計による漁獲量の経年変化は、最低であったS54年度以降は、増加傾向にあり、近年は600t前後で推移しています。このことは、漁業者が実践しているズワイガニ資源管理の成果と考えています(図1)。

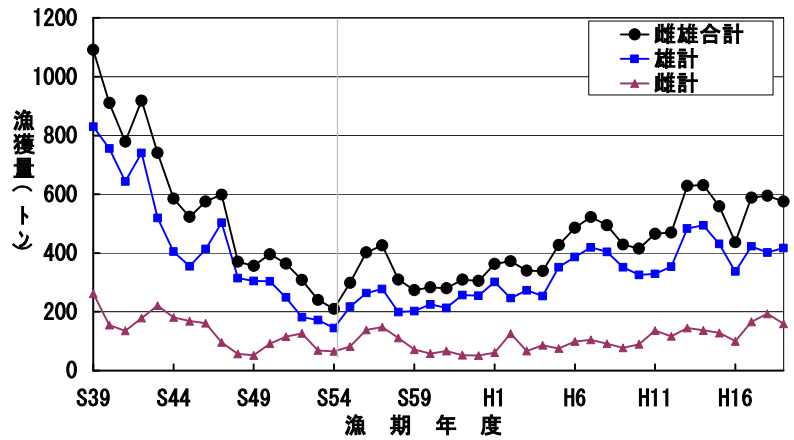


図1 ズワイガニ漁獲量の経年変化

卓越年級群：福井丸のトロール網調査で卓越年級群（他の年に比べて特に多い加入量の年級群）が確認されています。H14年の調査で卓越年級群が確認され、この群が漁獲対象となったことがH17～19年に漁獲量が増加した要因のひとつになったと考えられました。また、H18年の調査でも別の卓越年級群が確認されています。この群が漁獲対象となるH21年まで大切に保護することが、今後の漁獲量・漁獲金額の安定のために重要であると考えられます(図2)。

推定資源量：福井丸のトロール網調査結果を基に漁獲対象となるズワイガニ資源量を推定しました。推定資源量は雄ガニで1,508t、雌ガニで453tと算出され、昨年を下回る値となりました。推定資源量が減少した要因としては、H14年調査で確認された卓越年級群による漁獲対象資源が減少したためと考えられます。

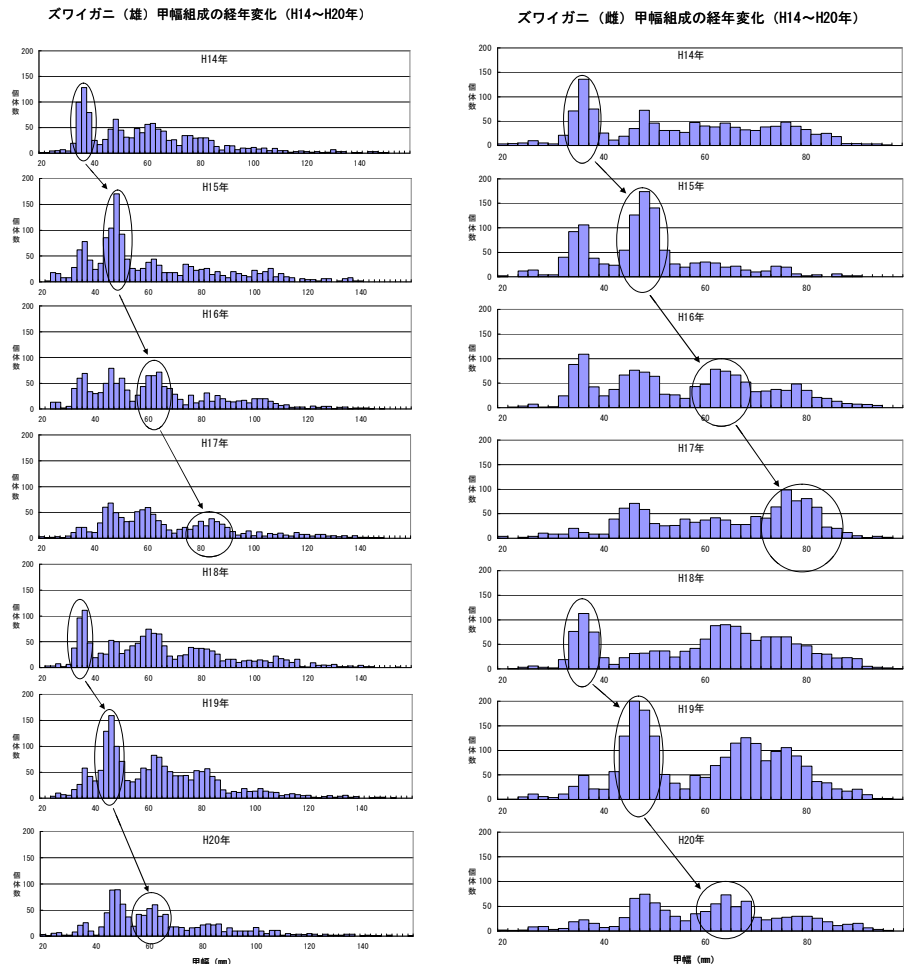


図2. 福井丸トロール調査で採集したズワイガニの甲幅組成

(家接直人)

トラフグのネオベネデニア症について

ネオベネデニア症は、単生類のネオベネデニア・ギレレという寄生虫がトラフグの体表面に大量に寄生することによって起こる病気です。養殖を営んでいる方にはハダムシ症と言った方がわかりやすいでしょう。

本症は、通常8月の後半から9月の初めに寄生が確認され、水温が15℃以下になる12月まで続きます。油断していると大量寄生する場合もあるので注意が必要です。本虫がトラフグに大量に寄生すると、腹部の発赤、スレやタダレ、眼球の白濁、食欲の低下などの症状が見られ、悪化するとへい死に至ります。本県では、特に高水温時に大量発生し、トラフグの成長や生残に影響を与えています。

本虫は、全長約3~8mmで体型は扁平、前端に1対の吸盤、後端は2対の鉤をもつ吸盤状の固着盤を有しています(図1)。雌雄同体(精巣2つ、卵巣1つ)で、1日に約300~800個の卵を産みます。1991年頃に輸入カンパチに寄生して日本に侵入してきたと考えられています。対策として5~10分間の淡水浴でほとんど脱落するので、寄生が確認されると養殖現場では淡水浴による駆虫作業を行っています。しかし、高水温時には成長が早く、水温25℃で卵は約5日でふ化し、ふ化した幼生は約0.2mmでトラフグに寄生します。寄生後5日目には約1mm、8日目には約2.4mmまで成長し(図2)、この大きさになると親虫として産卵すると言われています。トラフグに寄生してから10日程度で成熟し産卵するという極めて生活環の短い寄生虫です。放置すれば大きな被害をもたらすことが予想されます。この対策として、感染源となる卵の除去と虫が産卵するまでに駆虫することが重要であることから、養殖現場では約1週間おきに淡水浴による駆虫作業を行っていますが、その労力は多大なものです。しかし、多大な労力を費やしても完全には駆虫できず、12月頃まで駆虫作業が続けられているのが現状です。これは、養殖しているすべてのトラフグを一斉に駆虫することが困難なこと、本虫はトラフグ以外の魚種でも寄生するため、他魚種による再寄生の可能性も考えられ、今回の調査で生簀の周りに蝟集する天然マアジに本虫の寄生を確認しました。

そこで、本年度から水産試験場では養殖業者の負担を軽減するために、また安全で安心なトラフグを消費者に提供できるように寄生虫の寄生抑制技術の開発に取り組んでいます。人間が食べても安全な食材を餌料に添加することによって、トラフグが寄生虫の寄生を抑制する能力を高めることができないものか試験を行っています。

(川代雅和)

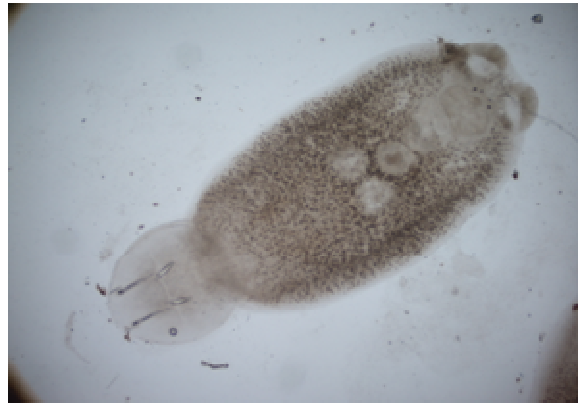


図1 材ベネデニア・ギレレ(2.38mm)

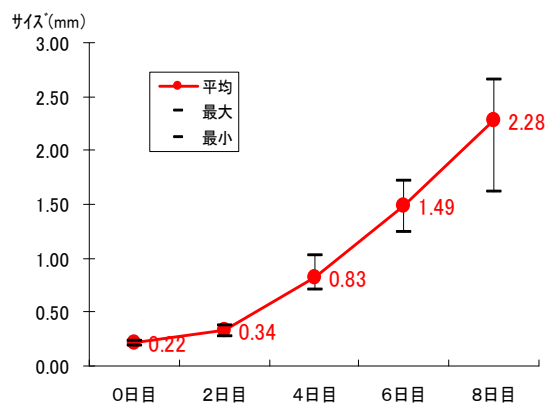


図2 材ベネデニア・ギレレの成長(水温25℃)